

令和4年度学校自己評価システムシート (県立上尾特別支援学校上尾南分校)

| | |
|--------|--------------------------|
| 目指す学校像 | キャリア教育を推進し、豊かに生きる力を育てる学校 |
|--------|--------------------------|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 社会の役割を担い、社会に貢献できる人材の育成 2 インクルーシブ教育の推進およびセンター的機能の充実 3 安心安全な学校づくりの推進 (危機管理、不祥事防止と教職員の働き方) |
|------|---|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 5名 |
| | 生徒 | 2名 |
| | 事務局(教職員) | 8名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | 学 校 関 係 者 評 価 | | |
|-------------|--|---------------------------------|---|--|---|-----|---|
| 年 度 目 標 | | | | 年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在) | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | <p>【現状】わかりやすい・取り組みやすい授業を意識した実践を行っており、授業をはじめとした教育活動に対して、すべての生徒から「学校が楽しい」と評価されている。</p> <p>【課題】より効果的な指導・支援方法について検討し、ICT機器等を活用することで、さらにわかりやすい授業の実践につなげていく必要がある。</p> | わかりやすい授業を実践するための指導・支援方法の工夫 | <p>①コロナ禍においても主体的に活動できる授業を実践するため、指導・支援方法について研修会を年4回行う。(通年)〈教務部〉</p> <p>②研修等を通して、ICT機器等を活用し、わかりやすい授業づくりを実践する。(9月以降)〈教務部・情報部〉</p> | <p>①校内研修を年4回行い、主体的に活動できる授業を実践できたか。</p> <p>②研修等を通して、ICT機器等を活用し、わかりやすい授業実践ができたか。</p> | <p>①教科及び自立活動について、生徒が主体的に活動できる支援方法の実践力向上をねらいとした校内研修を4回行うことができた。</p> <p>②すべての教科でICT機器を活用した授業実践を行い、わかりやすい授業が展開できた。</p> | B | <p>○研修で学んだ支援方法について更に研究し、わかりやすい授業の実践につなげていく必要がある。</p> <p>○1人1台端末を活用し、さらにわかりやすい授業を展開できるよう研修を積んでいく必要がある。</p> |
| | <p>【現状】生徒の実態を把握し個に応じた指導支援等、教職員間で共有し日々の実践に当たっている。</p> <p>【課題】職業教育と教科指導を両輪とした指導を展開するため、年間指導計画の連動性を図る必要がある。他校の実践を参考に教員研修を計画的に行い指導力の向上を図りながら3年間を見据えた年間指導計画を作成する必要がある。</p> | 3年間を見据えた職業教育及び教科指導の充実 | <p>①職業と他の教科指導、自立活動が連動した授業計画を作成し職業教育の充実を図る。(通年)〈教育課程検討委員会〉</p> <p>②年間420時間の特別非常勤講師等との取組等を通して、個に応じた具体的な指導支援を実践する。(通年)〈支援部・校内支援委員会〉</p> <p>③他校の実践を視察し、教職員間で共有し指導力の向上を図る(教育課程検討委員会)</p> | <p>①職業と他の教科、自立活動の担当が連携した授業を実践することができたか。</p> <p>②特別非常勤講師等との取組等を通して、個に応じた具体的な指導支援を実践できたか。</p> <p>③視察内容を活かした研修等により、指導力の向上が図れたか。</p> | <p>①自立活動を基盤とした計画を作成し、各教科が連携した教育を実践することができた。</p> <p>②特別非常勤講師からの助言を活かし、個に応じた具体的な支援につなげることができた。</p> <p>③5校の視察を行い、教職員で情報を共有し、指導力の向上を図ることができた。</p> | A | <p>○分校における自立活動について検討し、各教科及び職業教育の充実を図っていく必要がある。</p> <p>○教職員の専門性向上のため、非常勤講師を活用した仕組みを構築する必要がある。</p> |
| 2 | <p>【現状】インクルーシブ教育の推進に向け、高校と分校が年間を通じ交流できる活動等を新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点も踏まえ検討中である。</p> <p>【課題】今年度は1学年のみの行事への参加方法や交流を検討し実施するが、3学年が揃ったときを見据えた計画を推進していく必要がある。</p> | 高校との交流や地域での活動等を大切に教育活動の実施 | <p>①高校との連携を十分に図り、高校の行事への参加や交流及び共同学習を行う。(通年)〈教務部・生徒指導部〉</p> <p>②職業の時間において、地域で継続的に活動できる機会と活動を充実する。(通年)〈教務部・進路指導部・職業担当〉</p> <p>③日々の活動をHPに掲載する。(通年)〈教務部・情報部〉</p> | <p>①行事や交流及び共同学習を実施し、生徒の意識や行動に変容が見られたか。</p> <p>②職業教育における地域貢献の活動を実施し、生徒の意識や行動に変容が見られたか。</p> <p>③HPの更新を定期的に行うことができたか。</p> | <p>①高校分校連絡会を設置し、交流及び共同学習の充実を図り、生徒間の意識を高めることができた。</p> <p>②販売活動等を通じて生徒の自己肯定感等を高めることができた。</p> <p>③課業日においてHPの更新を毎日行い、日々の活動を公開することができた。</p> | A | <p>○インクルーシブ教育を推進するため、引き続き組織的に高校と連携し、交流および共同学習を計画していく。</p> <p>○販売活動以外の地域貢献できる継続した活動の充実を図る必要がある。</p> |
| | <p>【現状】コロナ禍の中、制限はあるが巡回や教育相談等の地域支援について、本校と連携し計画中である。</p> <p>【課題】本校と分校の連携による取組を地域に周知し、より地域支援を充実できるシステムを構築していく必要がある。</p> | 本校と連携した校内外支援の充実 | <p>①本校と連携し、巡回・教育相談やケース会議等の校外支援を充実する。(通年)〈支援部〉</p> <p>②外部専門家を活用し校内支援を充実させ、情報共有並びに個々の課題への対応を行う。(通年)〈支援部・自立活動担当〉</p> | <p>①近隣諸学校並びに校内において、本校と連携し実施できたか。</p> <p>②適切な支援と情報を共有し、個々の課題が改善・解決されたか。</p> | <p>①支援部を中心に本校と連携した地域支援を行うことができた。</p> <p>②専門家の助言を共有し、個々の課題解決に向けた支援を行うことができた。</p> | A | <p>○引き続き本校と連携し、地域における支援を充実していく。</p> <p>○外部専門家の活用を更に図り、教職員の専門性について、より一層向上させる必要がある。</p> |
| 3 | <p>【現状】防災、保健等の危機管理について、上尾南高校と連携した取組が必要である。</p> <p>【課題】危機管理マニュアルを高校と連携し整備する必要がある。高校と組織的な対応等を図り、防災、感染予防等の対策を徹底する必要がある。</p> | 危機管理マニュアルの整備及び新型コロナウイルス感染症対策の徹底 | <p>①危機管理マニュアルを整備し高校と連携した取組を行う。(通年)〈保健安全部、情報部〉</p> <p>②新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図る。(通年)〈企画委員会・保健安全部〉</p> | <p>①高校と連携し組織的に対応できたか。</p> <p>②県のガイドライン等を基に高校と連携して感染症対策が徹底できたか。</p> | <p>①お互いの危機管理マニュアルを共有し、避難訓練等を共同で行うことができた。共有のマニュアルを整備中。</p> <p>②保健安全部を中心に高校と連携して共通の感染症対策の徹底を図ることができた。</p> | B | <p>○安心安全な学校生活を送れるよう、危機管理マニュアルを整備し、引き続き高校と組織的に対応をしていく。</p> |
| | <p>【現状】効率的な業務分担を意識した組織作りにより、教職員のワークライフバランスへの意識が高い。職員会議、校内研修等を活用し、不祥事防止に係る研修を計画中である。</p> <p>【課題】働き方改革については、業務分担を組織的に整備し、教職員一人一人が自分の健康を意識した働き方をすることで、生徒に対して効率的で効果的な教育活動につなげる必要がある。不祥事防止については、職員会議や校内研修等を活用し、計画的に実施する必要がある。</p> | 働き方改革の推進及び不祥事防止の徹底 | <p>①学校における働き方改革基本方針を踏まえ、ふれあいデーの定時退勤をはじめ、時間外在校時間等の削減に向けた取組や会議の効率化等を行う。(通年)〈企画委員会・衛生委員会・分掌・学年〉</p> <p>②N字型の研修をはじめ不祥事根絶に係る研修に取組むとともに、日頃から注意喚起を行う。(通年)〈企画委員会〉</p> | <p>①教育活動の必要性を踏まえた上で、ふれあいデーの推進や会議の効率化等を進められたか。</p> <p>②不祥事防止を徹底できたか。</p> | <p>①ふれあいデー当日の呼びかけ、ノー会議デーの設定など、衛生委員会及び教務部を中心に推奨することができ、時間外在校時間を抑えることができた。</p> <p>②研修を計画的に実施したことで、常に意識を高めることができ、徹底を図ることができた。</p> | A | <p>○働き方改革への高い意識を継続していくため、引き続き取組について検討する。</p> <p>○不祥事防止の徹底について、引き続きN字型の研修等を計画し、実行する。</p> |

| | |
|-------------------|---|
| 学校関係者評価 | 実施日 令和5年2月20日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | <p>・職業教育の充実を図る上で、生徒の実態に応じて目標の設定をすることが重要である。引き続き3年後を見据えて教育課程を検討する必要がある。</p> <p>・社会に貢献したいと思える人材を育成することが大事。少人数の利点を生かし丁寧にやりたいことを明確にしていけると良い。</p> <p>・地域との交流で自治会との連携も必要。次年度は自治会との連携も検討してほしい。</p> <p>・HPについて、個人情報の保護等により掲載が難しい状況もあり、情報量が少なくなると閲覧する機会が減るので工夫が必要。</p> <p>・引き続き外部専門家の活用を図ってほしい。</p> <p>・避難だけではなく、災害があった後、いかに再開するのかといった業務継続計画のような取り組みを整備していく必要がある。また、登下校中の災害等も想定した訓練やマニュアルの整備も必要と思われる。</p> <p>・昨今、体罰防止だけでなく虐待防止についても厳しくなってきている。したがって虐待や体罰に関する不祥事防止に向けた研修を重ねていく必要があると思う。</p> |